

## 2024年度イフパット年次総会議事録

日時： 2024年6月8日(土) 14:00~16:00

場所: JICA 筑波センターけやき棟講義室1 及びオンライン出席の併用(ハイブリット会議)

出席者(敬称略): 理事: 櫻井文海、西村美彦、永井和夫 監事: 狩野良昭

会員: 美馬巨人(議長)、岩崎薫、太田光彦、小早川聖、斉藤英毅、匠原監一郎、  
中野久雄、山岸ひろみ(事務局)、石上俊雄(事務局長) 小計: 13名

ZOOM 参加: 理事: 和田彩矢子、会員: 小林沙羅、山口浩司、積奈津子(書記)  
實方美和(賛助会員) 小計 5名

表決表提出者: 会員: 石井潔、浦山久、椛木信幸、長岡浩一、西野重雄、宮内崇博、  
吉田俊弘 小計 7名

全部で25名の会員の参加。(うち1名は賛助会員)

講演会: 総会の前に、弊法人の取り組み事業(エルサルバドル草の根「女性の生活改善と  
青少年のビジョン形成を通じた幸せに過ごせる地域づくり事業」)に専門家として参画して  
くださった本橋修二氏(農林水産大臣認定6次産業化プランナー)から活動報告をしていた  
だいた。

総会の成立: 。正会員のうち会場参加13名、オンライン参加4名(他に1名賛助会員参  
加)、表決表提出者7名 計24名出席、委任状提出者5名であり定足数に数える者 計29  
名。正会員総数は42名であり、3分の1以上の出席と認められ、定款27条により総会は成  
立。

### 表決票集計結果(回収数7)

- |                        |             |
|------------------------|-------------|
| I. 2023年度事業報告(1号議案)    | 賛成: 7 反対: 0 |
| II. 2023年度決算報告(2号議案)   | 賛成: 7 反対: 0 |
| III. 2024年度事業計画(3号議案)  | 賛成: 7 反対: 0 |
| IV. 2024年度予算案(4号議案)    | 賛成: 7 反対: 0 |
| V. その他(理事・監事の改選)(5号議案) | 賛成: 7 反対: 0 |

審議内容：

- ① 櫻井会長の開会挨拶の後、議長に美馬監事補佐、書記は積奈津子会員、議事録署名人に櫻井会長と永井理事を選任して議事を進めた。
- ② 1号議案：2023年度事業報告（1号議案）を総会資料により事務局から概要を下記のように報告した。
  - 課題別研修の「南アジア地域マルチセクターで取り組む栄養改善」は2023年度で終了となったが、新規に「持続可能な農業機械利用」を2024年度から3年間受託することが決まった。草の根技術協力では、ベトナム「中山間地域の少数民族農村におけるアグリツーリズムを導入した生活向上モデル事業」及びエルサルバドル「女性の生活改善と青少年のビジョン形成を通じた幸せに過ごせる地域作り事業」は、いずれも2024年度内に終了するが、新規の草の根事業として、草の根パートナー型のマダガスカル「生活改善アプローチを通じた若年女性による栄養改善推進プロジェクト」が、2024年度から3年間協力することとなった。
  - 自主事業積立金について、エルサルバドル草の根フォローアップ及びベトナムにおける環境保全型農業分野の新規案件形成のための調査に活用することが2024年5月の第1回理事会で承認された。研修委託契約において、JICAが新たに導入したランプサム（一定確定額請負）型契約について案件担当者と情報共有し、2024年度に試行的に1コース（栄養改善Bコース）実施してみることに確認した。事務局長の変更に伴う人事および会員の増減について確認した。

質疑応答

（質問）ランプサム型契約について詳しく説明して欲しい。

（回答）受託の成果状況（到達目標が達成できたこと）についてはJICAに報告する必要があるが、経費精算についてはJICAに報告する必要はなく、見積時に交わした金額にて精算を行う。事務処理の低減というメリットと研修完了報告後までは自己資金で研修を行うこととなるデメリットの両面がある。

（質問）エルサルバドル草の根の案件に関して、マスタープランとして10年のプランが提示されていたが、外部の補助金の申請は1年度とのこと。この関連性について、もう少し詳しく知りたい。

（回答）エルサルバドルの草の根プロジェクト（3年間）終了後に、外部支援として「緑の募金」を活用しながらの自主事業として支援を続ける予定。緑の募金の申請年度が1年ごとであり、この申請は複数年度実施予定。その他、協力隊の派遣などもJICAと協力しながら計画したい。

（質問）エルサルバドルの草の根プロジェクトで、病害虫に対する指導は実施しているか。

（回答）野菜栽培の指導は実施しておらず、病害虫は管轄外である。参考情報になるが、 Dengue熱対策は燻蒸作業をしていた。



●採決の結果、全員が異議なしとして全会一致で1号議案が承認された。

③ 2号議案：2023年度決算報告（2号議案）を事務局から概要を報告した。

- 事業収益は89,504千円、経常費用（支出）は88,659千円となり、当期正味財産増減額は964千円の微増であった。期末の正味財産合計としては、20,035千円、また財産目録において、流動資産としては、47,967千円、流動負債は27,932千円が期末時点で計上され、正味財産の20,035千円と合致する。今期より税理士による指導を導入、これらの計上について問題ないことを確認いただいている。狩野監事が私事ご都合により総会を早退したため、石上事務局長から狩野監事作成の監事報告書に基づいて下記のように監事報告がされた。

総会資料5月7日付「監査報告書」のとおり、昨年度の会計と業務について適正であることを確認された。自主積立金を活用し、マダガスカル栄養改善のプロジェクト案件獲得につながるなど、次期繰越正味残高の有効な活用がなされている。

#### 質疑応答

（質問）2023年度活動計算と実績を比較して、大きな違いがあれば理由とともに教えていただきたい。

（回答）収入に該当する経常収益が103,617千円（計画値）から89,622千円（実績）に減っている。2023年度は草の根事業および研修事業でのCOVID19への対応の端境期に該当し、実際に想定していた活動が変動したことがあげられる。また、IFPaTの支出（経常費用）は、事業の性質上、経常収益とも連動している。そのため、支出も収入と連動して、101,850千円（計画値）から87,692千円（実績値）に削減した。

（質問）海外活動費が計画値と比して倍増しているのはなぜか。

（回答）草の根事業の航空運賃は、計画値では「旅費交通費（事業）」に計上しているが、実績値では「海外活動費」に計上している。これは、JICAの計上費用に合わせる形にしているため。

（回答）ベトナムの草の根事業において、ベトナムから研修員を招聘する場合の航空運賃について、計画値では「国内活動費」として計上するが、実績値では「海外活動費」として計上した事例もある。なお、実際の活動では、当初の計画全体の枠は超えないが、その時の状況とバランスを見ながら、より効果的な支出方法を考えている。

●採決の結果、全会一致で2号議案が承認された。

④ 3号議案：2024年度事業計画（3号議案）を総会資料により事務局から概要、報告した。

- 研修コースでは課題別研修5コース（生活改善1件、栄養改善2件、農業機械2件）及び国別研修1コースの計6コースを実施する。課題別研修「持続可能な農業機械

利用コース」は、2024年度からの新規案件（3年間）である。草の根技術協力では、エルサルバドル「女性の生活改善と青少年のビジョン形成を通じた幸せに過ごせる地域作り事業」及びベトナム「中山間地域の少数民族農村におけるアグリツーリズムを導入した生活向上モデル事業」が今年度内に終了となるが、新規に受託が決まった草の根パートナー型のマダガスカル「生活改善アプローチを通じた若年女性による栄養改善推進プロジェクト」を2024年度から開始する。また、自主事業積立金の活用による新規案件形成を行うとともに、イフパットだよりの発行などの自主事業も継続する。人事としては、農業機械分野の研究者として、2024年4月1日付けで魚住憲志氏を採用し、新規の草の根マダガスカル案件の現地調整員として、釣本みずき氏を年度内に採用する予定。会員の増減では新規加入が2名あった。

●採決の結果、3号議案は全会一致で承認された。

⑤ 4号議案：2024年度予算案（4号議案）について、事務局より説明した。

- 2024年度事業計画について：2024年度は、経常収益については、新規の研修コースと草の根パートナー型の新規案件の予算規模が大きいこともあり、昨年度実績より2千万円以上増額の111,026千円（2023年度実績89,622千円）を計画している。これに対し、経常費用は、109,245千円程度（2023年度実績は88,659千円）を予定しており、正味財産増減額は1,781千円程度の増額となることを想定している。

●採決の結果、全会一致で、4号議案が承認された。

⑥ 5号議案：その他（5号議案）について、理事の改選・監事の改選・名誉顧問の新設について全会一致で下記のように承認された。

理事：再任（櫻井文海、西村美彦、永井和夫、和田彩矢子）新任（小林沙羅、山口浩司）  
退任（伊藤信孝）

監事：新任（美馬巨人）退任（狩野良昭）

新任の小林理事、山口理事、美馬監事から挨拶があった。

また、名誉顧問の新設と伊藤信孝元理事の就任が承認された。（なお、石上事務局長より、伊藤元理事は2024年5月にタイの大学の招聘で出張中のバンコクにおける事故で入院中であるが、総会前にご本人に名誉顧問の就任について内諾をいただいていた旨の説明があった）

⑦ 議長解任

⑧ 閉会挨拶（永井理事）

以上

2024年6月8日

議長：美馬 巨人



議事録署名人：永井 和夫



議事録署名人：櫻井 文海



上記は、特定非営利活動法人国際農民参加型技術ネットワーク 2024 年度年次総会  
議事録の謄本であることを証明する。

特定非営利活動法人国際農民参加型技術ネットワーク

代表者氏名： 櫻井 文海

